

NPO法人高齢社会をよくする女性の会 会報

No. 300

2024年8月発行

NPO法人高齢社会をよくする女性の会
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-9-1
第31宮庭マンション802号室
TEL. 03-3356-3564
FAX. 03-3355-6427
郵便振替 00100-0-79477

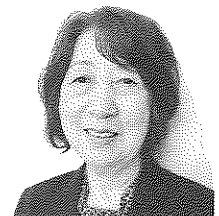


本会初の記念すべき明るい役員交代
(写真左から) 渡辺・沖藤・木村・樋口・袖井・石田 (敬称略)

志を継いで 新しい風を	理事長 木村 民子 …… 1
第20回NPO法人高齢社会をよくする女性の会 特別総会報告 …… 2	
第1号議案～第6号議案 …… 3～10	
閉会～全国大会予告ほか …… 11	
新旧役員トーク&トーク …… 12	
特別講演「私たちはどう生きるか～備えるもの 備えること～」	
常光 利恵 …… 14	
シリーズ介護保険を追う②	
10年先に行く大阪の惨状～根本議論が必要	
植本 眞砂子 …… 15	
本の紹介・トピックス・事務局だより・編集後記 …… 16	

志を継いで 新しい風を 新体制で臨みます

NPO法人高齢社会をよくする女性の会
理事長 木村 民子



このたびの総会で行われた役員改選により、新理事長に選出された木村民子です。樋口恵子理事長は勇退され、改めて名誉理事長に就任されました。袖井孝子、沖藤典子両副理事長も辞任され、理事として引き続き本会にご尽力いただくことになりました。

先輩方は、平和が長く続いた日本において、高齢者の尊厳と権利を守り、介護保険の創設に寄与され、男女平等社会への道を切り拓いたといっても過言ではありません。ただ今日、円安、物価高、異常気象などにより、かつてないほど高齢者の生活は脅かされています。ひとり暮らしの高齢女性の増加、低年金による貧困、社会保険料や医療費値上げなどの問題も深刻です。

さらにこれからは団塊世代が全て後期高齢者となる待ったなしの2025年問題や、大介護時代が控えています。とりわけ在宅介護の命綱である介護保険の改定に関しては予断を許しません。これからも常に会員へ情報を提供しつつ、国にも調査研究の結果など皆さまの

声を届けてまいります。樋口名誉理事長は「生涯一有権者、生涯一消費者、生涯一納税者」と提唱されましたが、私たち高齢者もこのような気概を持って自立し、共によりよい高齢社会を築いていきたいものです。

なお、新しい副理事長の石田路子さんは社会福祉・社会保障の専門家であり、渡辺敏恵さんは医療従事者で、大変心強く思っております。この世代交代の機会を新しいスタートととらえ、厳しい状況ではありますが、先輩方が築いてこられた活動を継続し、さらに発展させていきたいと考えています。

会員の皆さま、新生「高齢社会をよくする女性の会」に一層のご支援をお願い申し上げます。

プロフィール

1948年東京生まれ、お茶の水女子大学卒業、書籍編集、雑誌記者を経て某損保会社の女性会員組織の企画運営に当たる。その後区議会議員2期、元女性と仕事の未来館解説員を経て和洋女子大学非常勤講師。現在熱海市の山に夫と二人暮らし。ジェンダー視点の著書多数。主な著書に『100歳までに読みたい100の絵本』など。

第20回NPO法人高齢社会をよくなる女性の会 特別総会報告

2024年6月8日（土） 於：東京ウィメンズプラザ・ホール

◎第20回特別総会は個人会員511人、グループ会員37のうち、個人会員81人出席、委任状提出297人、グループ会員7グループ出席、委任状提出24グループ、よって定足数を満たしており、この総会は成立した。

- 1 総合司会 稲葉敬子（本会理事）
- 2 理事長あいさつ

大勢の会員にお会いできたことに感謝。

本会創設以来42年にわたり理事長を務めたが本日の総会で副理事長2人とともに退任することとなった。これまでの会員並びに関係者の協力に感謝する。



総合司会 稲葉理事



樋口理事長

- 3 議長等選出

議長：沖藤典子副理事長、議事録署名人：谷内眞理子理事・鬼塚信子運営委員、書記：伊藤恭子理事・林千根理事

- 4 議事審議

第1号議案 2023年度事業報告承認の件

袖井副理事長が事業報告を説明し、満場一致で原案通り承認された。

第2号議案 2023年度事業収支決算報告承認並びに監査報告の件

新井事務局長が説明とともに赤字が続く窮状を訴えた。会場から借入金の表記が決算書と貸借対照表で異なることについて質



議長 沖藤副理事長



袖井副理事長

問があり、事務局長がそれについて説明した。

続いて、松田監事から監査報告があり、経済的に苦しい中、事務局が間違いなく会計事務を遂行していることが報告され、今後は会のこれからのについても考えていきたいと発言があった。収支決算報告と監査報告は満場一致で一括承認された。

第3号議案 2024年度事業計画案の件

木村民子理事より、10月開催予定の全国大会 in とよたのほか新年度の事業計画案の説明がされた。

第4号議案 2024年度会計収支予算案の件

続いて新井事務局長より、経済的には困難な状況にあるが事業を減らすことなく、活動を続ける意図をもって事業計画と予算を準備したとの説明があった。会場から国際交流事業費と福利厚生費の具体的内容について質問があり、事務局長より回答がなされた。

第3号議案・第4号議案は一括採択され、満場一致で承認された。なお事務局長より運営委員を引き受けてくださる人を求めているので自薦・他薦を問わず申し出てほしいと依頼があった。



監査報告 松田監事

第1号議案

2023年度 事業報告

●例会・総会・全国大会

4/18 (火) 4月例会 (ハイブリッド開催)

第1回樋口恵子賞受賞者に聞く勉強会
〈パート1〉

「地域における助け合いの輪を広げよう！」

受賞発表者：伊藤眞知子 (特別非営利活動
法人いこいの家夢みん理事長)

司会：袖井孝子 (本会副理事長)

参加者：会場30人 オンライン20人

於：東京都生協連会館会議室

6/10 (土) 第19回定期総会

総会、議案審議

記念講演：第1回樋口恵子賞受賞者に聞く
勉強会 〈パート2〉

「おひとりさま時代の「死後の福祉」と「葬
送の社会化」—お墓・葬儀・死後事務・入
院保証など」

受賞発表者：井上治代 (認定NPO法人エ
ンディングセンター理事長)

司会：袖井孝子

参加者：個人77人、委任状224人、団体：
5グループ、委任状17グループ

於：日比谷図書文化館コンベンションホール

8/23 (水) 8月例会 (ハイブリッド開催)

「[全会員調査]から見た本会の未来は？」

報告：石田路子 (本会理事)

司会：沖藤典子 (本会副理事長)

調査協力者スピーチ：伊藤恭子、稲葉敬子、
佐藤千里、玉木康平、林千根、柳原智子
(全員本会理事)

参加者：会場30人 オンライン20人

於：日比谷図書文化館4階セミナールームB

10/21 (土) ~22 (日) 第42回高齢社会を
よくする女性の会全国大会 in 大阪

「みんなで話そ！人生100年時代 地域で
‘生’を全うするために」

基調講演：「人生100年時代の医療・介護
とは～地域医療を28年実践してきた医
師から次世代に向けての提言～」

講師：長尾和宏 (医学博士・(公財)日本
尊厳死協会副理事長／映画「痛くない死
に方」原作・医療監修)

シンポジウム「人生100年時代のこれから
を語る」

コーディネーター：森詩恵 (大阪経済大学
副学長・教授)

シンポジスト：小島美里 (NPO法人暮ら
しネット・えん代表理事)、津止正敏 (立
命館大学特任教授／男性介護ネット事務
局長)、山口高志 (厚生労働省老健局総
務課長)、樋口恵子 (本会理事長)

第1分科会「介護の現状と介護保険のこれ
から」

コーディネーター：石田路子

問題提起：小島美里

報告：長福洋子 (NPO法人エフ・エー理
事長)、瀬能邦子 (高齢社会をよくする
女性の会・大阪会員)

第2分科会「地域で支え合おうー私たちが
望む地域包括ケア」

コメンテーター：袖井孝子

講師：竹端寛 (兵庫県立大学環境人間学部准
教授)、内海正子 (NPO法人はなのいえ理事
長)、守本陽一 (一般社団法人ケアと暮らし
の編集社／兵庫県豊岡保健所総合診療医)

第3分科会「自分の生き方、逝き方は自分
で決める」

コーディネーター：沖藤典子

問題提起：関本雅子 (在宅診療医かえでホー
ムケアクリニック顧問)

報告：松澤ミサホ（NPO法人風の葉代表／社会福祉士）、上杉和美（みんとケアプランセンターケアマネジャー）

第4分科会「介護する人・介護される人の尊厳を」

コーディネーター：植本眞砂子（高齢社会をよくする女性の会・大阪代表）

問題提起：渡辺俊之（精神科医 渡辺医院／高崎西口精神療法研修室院長）

報告：藤原るか（介護福祉士 NPO法人グレース・ケア 登録ヘルパー）、西村早苗（在宅介護経験者）

第5分科会「排せつケアが暮らしを変える～失禁は誰にでも起こり得る～」

講師：浜田きよ子（排泄用具の情報館「むつき庵」所長／高齢生活研究所所長）、熊井利将（「むつき庵」副所長／ケアマネジャー）

参加者：延べ約400人

於：大阪経済大学大隅キャンパスA館・D館

12/2（土）歳末東京名物 女たちの討ち入りシンポ

「介護保険は老後を支える命綱 みんなで守り 改悪阻止を！」

全体進行：沖藤典子

趣旨説明：袖井孝子

要望書読み上げ：石田路子

介護保険のいきさつとその後の変遷：樋口恵子

介護保険改定についての意見：植本眞砂子

介護保険改定のポイント説明：石田路子

私たちの望む「介護保険制度」：登壇者全員

まとめ：袖井孝子

第2回「樋口恵子賞」発表・表彰式

実行委員長：袖井孝子

司会：柳原智子

審査講評：浅倉むつ子（早稲田大学名誉教授）

受賞者：高橋真理子（一般社団法人UMEプロジェクト代表／広島）

大海篤子（砧むら おばちゃん会議代表／東京）

山西哲郎（特定非営利活動法人 日本コンチネンス協会代表／東京）

三木秀夫（特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪代表／大阪）

参加者：会場100人

於：東京ウィメンズプラザホール

2/27（火）新春例会（ハイブリッド開催）

第1回樋口恵子賞受賞者に聞く勉強会〈パート3〉

「大田区中国帰国者センターの活動について」

受賞発表者：鈴木洋子（一般社団法人OCNet 大田区 中国帰国者センター代表）

司会：柳原智子

参加者：会場30人 オンライン20人

於：日比谷図書文化館セミナールームA

要望書 介護保険改定に関する要望書を武見

敬三厚生労働大臣へ提出（2023.11.22）

調査研究事業 全会員調査「本会の今後について」

〈会報発行〉年間6回発行 5月、7月、9月、11月、1月、3月

〈理事・監事会〉定期理事会 5/17（水）ハイブリッド開催

於：日比谷図書文化館セミナールームA

臨時理事会 9/2（土）ハイブリッド開催
於：四谷区民ホール

〈運営委員会〉4/12（以降ズーム併催）、5/10、5/31、6/21、7/19、8/23、9/13、10/13、10/30、11/15、12/20、1/22、2/19、3/6、3/18

〈会員数〉個人537人 グループ会員38 賛助会員5人（2024.3.31現在）

第2号議案

2023（令和5）年度 事業収支決算書

自 2023年4月1日 至 2024年3月31日

（単位：円）

科 目	予 算 額	決 算 額	備 考
経常収入の部			
1. 会費（含入会金）	4,000,000	3,623,900	入会金27,000、会費3,596,900
2. 印刷物売上	150,000	150,240	売上分296,320、仕入分146,080
3. 雑収入	383,233	79,311	寄付58,500、折込み料15,000
4. 借入金	2,300,000		
5. 前年度繰入金	1,166,767	1,166,767	
収 入 合 計	8,000,000	5,020,218	

科 目	予 算 額	決 算 額	備 考
1. 支出の部			
事業費	2,085,000	1,324,495	
啓発事業費	1,800,000	1,208,715	全国大会 783,840、討ち入り 184,765他
調査研究事業費	200,000	70,000	集計分析費
相談事業費	5,000		
国内交流事業費	60,000	45,780	高連協・ASCOM 年会費他
国際交流事業費	20,000		
2. 管理費	5,650,000	4,940,464	
給料手当	1,650,000	1,549,750	事務局給料 1,471,450、雑給78,300
福利厚生費	20,000	16,720	時田純氏供花代
会場・会議費	250,000	153,456	総会 97,431、理事会30,135他
旅費交通費	400,000	403,980	事務局員交通費他
通信運搬費	800,000	625,021	会報送料 418,040、電話・切手代
水道光熱費	130,000	99,185	
消耗品費	300,000	261,360	コピー機・電話機リース料 21,780×12
印刷製本費	1,500,000	1,412,123	会報印刷代1,197,900、封筒印刷・コピー代
事務費	350,000	175,688	
管理費	220,000	218,400	
雑 費	30,000	24,781	
予備費	265,000		
当期支出合計		6,264,959	
次年度繰越金		△1,244,741	
支 出 合 計	8,000,000	5,020,218	

次年度繰越金の計算

前年度繰越金	1,166,767円	
当期収入実績額	3,853,451円	
当期支出実績額	6,264,959円	差引 △2,411,508円
次年度繰越金		△1,244,741円

貸 借 対 照 表

2024（令和6）年3月31日現在
（単位：円）

借 方（資産）		貸 方（負債・基金）	
科 目	金 額	科 目	金 額
1. 現金	3,475	1. 次年度繰越金	△1,244,741
2. 預貯金	550,214	2. 前受会費	364,000
3. 前払金	95,570	3. 長期借入金	1,500,000
4. 什器備品	400,000	4. 部門間勘定	500,000
5. 電話加入権	70,000		
合 計	1,119,259	合 計	1,119,259

以上の監査をなし、その正確なることを承認します。

2024年5月2日

監事 黒羽 希子 印

監事 松田 敏子 印

旧高齢社会をよくなる女性の会資産報告

前年度期末残高	修繕積立金	4,150,753
〃	繰越金	7,403,766
当期損益	預金利息等	18
	本会会計繰入金	△2,000,000
	部門移動	6
当期末残高	計	9,554,543

貸 借 対 照 表

2024（令和6）年3月31日現在
（単位：円）

貸方（資産）		借方（負債・基金）	
科 目	金 額	科 目	金 額
1. 預貯金	7,364,543	1. 修繕積立金	4,150,753
2. 定額貯蓄	2,190,000	2. 次年度繰越金	5,403,784
		3. 部門間移動	6
合 計	9,554,543	合 計	9,554,543

第3号議案

2024（令和6）年度
事業計画

アフターコロナとなった今年、年明け早々に起こった能登半島大地震に際しては、本会からの被災者支援の呼びかけに応え、多くの会員の皆様にご協力いただきました。改めてお礼申し上げます。

また今年度は、新会員の「やはぎ会」が「全国大会 in とよた」を運営することとなり、バトンを繋ぐことができました。ただ、国外では戦争や気候変動などが深刻な問題となり、我が国では少子化、円安、物価高などにより、かつてないほど高齢者の生活も圧迫されています。命綱である介護保険制度の改定に関しては予断を許しませんが、常に会員へ情報を提供しつつ、国にも調査研究の結果等について、会員をはじめ多くの当事者の声として提出していきたいと考えています。

本会は会員の皆様の高齢化や会員減に伴い、今年度は特に厳しい財政状況にあります。新体制のもと、新バージョンの会報をお届けするなど、新しい活動形態、活動内容を模索しつつ、皆さまと共に歩んでいきたいと念じております。

●啓発事業・シンポジウム

◎高齢社会をよくなる女性の会第43回全国大会 in とよた

おいでん とよたへ！ 本音で語ろまい！

わたしたちの暮らし・人生、そして未来

〈日時〉2024年10月26・27日（土・日）

〈会場〉豊田市産業文化センター

（愛知県豊田市小阪本町1-25）

第1日目 オープニングアトラクション

基調講演：上野千鶴子氏

演題：「おひとり様の老後が危ない！」

（社会学者・東京大学名誉教授 認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク（WAN）理事長）

シンポジウム テーマ：「どうなる“介護保険” 老いても安心…のはずが、不安の種に？」

コーディネーター：石田路子（NPO法人高齢社会をよくなる女性の会副理事長）

パネリスト：医療・介護関連事業代表者

介護保険事業代表者

介護保険事業責任者

厚生労働省老健局

袖井孝子（NPO法人高齢社会をよくなる女性の会理事）

交流会

第2日目 分科会（案）

第1分科会：人生100年時代～高齢社会を生きる～

第2分科会：“高齢社会の未来”について 若い世代とディスカッション

第3分科会：女性も働きやすい社会へ～GGI世界125位の現実をふまえて～

第4分科会：“くるまのまち豊田”で高齢ドライバー問題を考える

～いきいきと自立し心豊かに、車とともに快適に暮らすには～

第5分科会：みんなの居場所がある地域・誰もが参加できる方法

～今どきの助けあいシステムを考える～

まとめ

閉会

◎東京歳末名物「女たちの討ち入りシンポ」
テーマ未定

〈期日〉12月14日（土）

東京ウィメンズプラザ・ホール（渋谷区神宮前）

●総会・月例会など

4月18日(木) 第2回樋口恵子賞受賞団体に聞く「日本コンチネンス協会」

講師：小島みさお氏(日比谷図書文化館スタジオプラス)

5月11日(土) 特別理事会 プラザエフ(四谷・主婦会館) Zoom併用開催

6月8日(土) 第20回特別総会

於：東京ウィメンズプラザ・ホール

・特別講演：常光利恵氏(本会理事・石川県21ネットワーク代表)

・総会：定款改正を伴うため、特別総会と位置付ける

2/3以上の出席を要す

7月～9月 この間、例会

10月26日(土)～27日(日) 第43回全国大会inとよた

11月 「介護保険利用当事者調査」報告会

12月14日(土) 東京歳末名物『女たちの討ち入りシンボ』

終了後、実行委員会による第3回「樋口恵子賞」発表・表彰式

新年1月～3月 この間、勉強会(超高齢社会の高齢女性の問題、住まい・年金・医療・介護など)

※勉強会案 テーマ「高齢女性の健康について」講師、岐阜の宮崎千恵氏

(日本産婦人科医会代議員・医療政策を提言する女性医師の会代表理事)

●国内交流事業

国内団体との交流・ネットワーク活動(高連協、子育て応援団、クオータ制を推進する会、ASCON、WAN、ケア社会をつくる会、内閣府男女共同参画推進連携会議、ほか) 熱海市市民講座に講師派遣

●調査・研究事業

調査事業：6月「介護保険利用者調査」

介護保険利用当事者実態調査実施。

集計、分析、要望書提出、報告会

相談事業：「介護保険お困りごと相談」メール受付相談

樋口恵子賞：賞実行委員会の一連の活動に協力する。但しこの活動に関する資金はすべて樋口恵子個人の拠出とする

会報：年6回発行(P8～P16)

広報活動 ホームページの充実を図る

総会・会議：総会(年1回) 理事・監事会(年1回) 運営委員会(月1回)

【開催予告】9/16(祝・月) マラソンシンポジウム
樋口名誉理事長もビデオ参加の予定!

8時開 ぶっ通し! マラソンシンポジウム

今だから聞い直す!
介護保険のこれまでとこれから

過去・現在・未来を語り継ぐ
朝から夕方まで語り
討論のバトン



私たちは
こんな介護保険制度がほしい!!

9月16日(月・祝)
10:00～18:00

●会場 オンライン YouTube 配信

●参加費 無料

●内容 趣旨説明：梅井孝子(高齢社会をよくなる女性の会理事)
総会司会：大庭由紀子(ジャーナリスト)

I部 10:00-12:30 【制度編】
モデレーター：上野千鶴子
発言者 小竹雅子、権丈晋一、香取照幸ほか

II部 13:30-15:30 【実践編】
モデレーター：中澤まゆみ
発言者 石井英寿、坂野悠己、菅原由美ほか

III部 16:30-18:00 【未来編】
モデレーター：小島美里
発言者 竹信三恵子、岡部耕典、新潟県社保協ほか
登壇者全員による討論

●申込み Peatix からお申し込みください

●問合せ ケア社会をつくる会 E-mail: caresociety2023@gmail.com

WEB配信担当：介護をよくなる東京の会
主催：ケア社会をつくる会
共催：ウィメンズアクションネットワーク(WAN) 高齢社会をよくなる女性の会(WARAS)

第4号議案

2024（令和6）年度 会計収支予算

（単位：円）

科 目	金 額	備 考	前年度実績
I 収入の部			
1. 会費(含入会金)	3,600,000	個人会員511人（割引会員含む）、グループ37、賛助会員 5	3,623,900
2. 印刷物売上	150,000	会報増部代、資料代、書籍販売ほか	150,240
3. 雑収入	194,741	寄付金、チラシ折込代、受取利息、ほか	79,311
4. 借入金	4,500,000	旧会より	
5. 前年度繰越金	△1,244,741		1,166,767
収入合計	7,200,000		5,020,218
II 支出の部			
1. 事業費	1,865,000		1,324,495
啓発事業費	1,500,000	とよた大会50万、全国大会、討ち入りシンポ、例会、ほか	1,208,715
調査研究事業費	300,000	介護保険利用者調査、集計、分析	70,000
相談事業費	5,000	介護保険困りごとメール相談	0
国内交流事業費	50,000	国内関連団体活動協力、会費、連絡調整費	45,780
国際交流事業費	10,000	国外関連団体との連絡費	0
2. 管理費	5,260,000		4,940,464
給料手当	1,600,000	事務局（2人）給料、ホームページ・事務局ボランティア代ほか	1,549,750
福利厚生費	20,000		16,720
会場・会議費	200,000	総会、理事・監事会、会議会場費、連絡費	153,456
旅費交通費	450,000	事務局員交通費、ほか	403,980
通信運搬費	700,000	会報等送料、電話・インターネット使用料	625,021
水道光熱費	110,000	事務局電気・ガス・水道料金	99,185
消耗品費	300,000	コピー機・電話リース代、メンテナンス代	261,360
印刷製本費	1,400,000	会報編集・印刷費（6回）・封筒印刷費、資料コピー代	1,412,123
事務費	230,000	税理士・行政書士手数料、用紙・事務用品	175,688
管理費	220,000	事務局マンション管理費（18,200円×12ヵ月）	218,400
雑 費	30,000	茶葉代、印紙、ほか	24,781
3. 予備費			実支出合計
予備費	75,000		6,264,959
III その他資金支出			次年度繰越金
			△1,244,741
当期支出合計	7,200,000		5,020,218

第5号議案

NPO法人高齢社会をよくする女性の会 新役員名簿

(任期2024年6月～2026年6月総会日迄)

理事長	木村 民子 (熱海市)	副理事長	渡辺 敏恵 (横浜市)
副理事長	石田 路子 (名古屋市)		
理事	池田 陽子 (留任)	理事	石毛 鏡子 (留任)
理事	伊藤 恭子 (留任)	理事	稲葉 敬子 (留任)
理事	井上千津子 (留任)	理事	井上由美子 (留任)
理事	植本真砂子 (留任)	理事	大熊由紀子 (留任)
理事	沖藤 典子 (留任)	理事	小賀野晶一 (留任)
理事	熊崎 清子 (留任)	理事	倉嶋美恵子 (留任)
理事	佐藤 千里 (留任)	理事	篠崎 英代 (留任)
理事	白井千賀子 (留任)	理事	常光 利恵 (留任)
理事	袖井 孝子 (留任)	理事	高瀬 義昌 (留任)
理事	高室 成幸 (留任)	理事	高野 逸子 (留任)
理事	寺尾 隆子 (高見澤たか子) (留任)		
理事	谷内眞理子 (留任)	理事	玉木 康平 (留任)
理事	野田 法子 (留任)	理事	林 千根 (留任)
理事	樋口 恵子 (留任)	理事	晝間 洋子 (留任)
理事	藤田 育美 (留任)	理事	堀口 雅子 (留任)
理事	宮崎 冴子 (留任)	理事	柳原 智子 (留任)
理事	横路由美子 (留任)		
新理事	時田佳代子 (小田原市)	新理事	柿沼トミ子 (加須市)
監事	松田 敏子 (留任)	監事	鬼塚 信子 (新任)

理事ご退任	渥美 雅子 (千葉市)	稲庭千弥子 (秋田市)	加藤 尚子 (松江市)
	富安 兆子 (北九州市)	野中 文江 (相模原市)	吉成 夏子 (郡山市)
監事ご退任	黒羽 房子 (藤原 房子)		

(敬称略)

第6号議案

NPO法人高齢社会をよくする女性の会定款の一部変更について

- ① 第1章、第2条の従たる事務所を京都市に置く を削除する件
- ② 第16条柱書 「役員の任期は2年とする」を
「役員の任期は2年目の社員総会迄の日とする」に変更する件



木村理事



新井事務局長

第5号議案 役員改選案について

本議案の取り計らいについて出席会員に問うたところ議長一任の声があり、佐藤理事が新役員名簿（案）を配付し、提案した。名簿は満場一致の賛成で承認された。出席の新理事と新監事の2名が紹介された。

第6号議案 定款の一部改正について

新井事務局長より定款第2条の2の削除、第16条の役員任期を「2年目の社員総会までとする」に変更することの提案があり、満場一致で承認された。

以上で総会の審議は終了し、議長が解任された。

総会終了後、石田理事より10月26・27日開催予定の第43回高齢社会をよくなる女性の会全国大会 in とよた大会について説明があった。

続いて、第3回樋口恵子賞の募集について、袖井孝子実行委員長より説明がなされた。

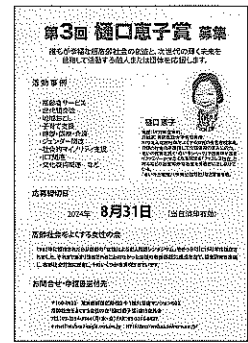
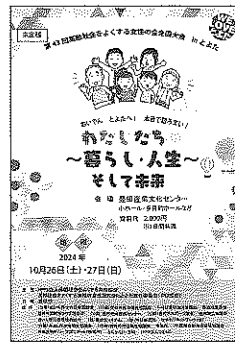
また、石田理事より「介護保険サービス利用者実態調査」の実施について説明があり、会員に協力方お願いを呼び掛けた。



石田理事



渡辺理事



さらに本総会の最重要議題であった役員改選にあたり、新旧の三役がそれぞれ退任の弁、新任の弁を述べた。（P12.13新旧役員トーク&トーク参照）

冒頭で司会の稲葉理事から、樋口理事長は、退任後も名誉理事長として、沖藤・袖井両副理事長は理事として、今後も会と共にいて下さることが発表された。トーク終了時には退任するお三方に対し、運営委員有志より長年の感謝を込めて用意した花束の贈呈があり、新旧役員の交替に花を添えた。

また、本会より常光理事に能登半島地震見舞い支援金の目録の贈呈も行われた。



皆さまお元気で！

最後に、渡辺理事の閉会の辞とともに第20回の総会は閉会した。

※なお、総会終了後、同会場で理事会が開催され、総会で承認された今期の理事長・副理事長を理事の互選により選出し、新理事長・新副理事長の就任が正式に承認された。

（林千根・記）

（写真・見坊伊都美）

新旧役員

トーク&トーク

司会 この度本会始まって以来、理事長、副理事長が揃ってご退任なさることになりました。長年本会の牽引役としてご活躍くださった皆様に、お言葉を頂戴したいと思います。

【樋口恵子 さん】

こうしてお集まりいただき嬉しいです。まずはお詫びしなければなりません。私は理事長として方向を誤ったのではないかと。去る3年前の松山大会の頃、コロナ禍の中で、いろいろ嫌なことが多かったのです。

地方都市ならではの地域分断がある中で、本会が中心になってコロナや他の病気も防ぎ、そのことを通して地域の友情が増すような地域作りにしたいと理想に燃え、私は、何とか大会を開催したいと頑張りましたが、なかなか難しいことでした。

そんな中で、松山大会の主催者の方は、こんな時こそ地域の力を発揮すべきといろいろと有意な活動をしてくださり、見事に成功させてくださった。

ところがその後、私に乳がんの再発があるらしいことが発覚、意気消沈してしまったことは事実です。公私混同はもっての外ですが、私が十分に関われなかったことが、会の活動にいささかの影響を与えたとなれば、大変皆様に申し訳なく思います。

コロナ禍の中で、会を縮小したり、活動を停止したりといったことは他でもよく聞きましたが、こうした問題に理事長として、リーダーシップを発揮出来なかったことが、少しでも本会の足取りを鈍らせたとしたら、それ

はすべて私の責任、本当に申し訳ございませんでした。

私は今92歳、とてもハッピー。人に恵まれたことで感謝でいっぱいです。

しかし、今世紀も来世紀も地球上の先進国の中で、高齢女性が多い社会は続きます。その女性達が幸せでなければ社会は沈滞いたします。高齢女性よ、もう一度元気を奮い起こそうではありませんか。

【袖井孝子 さん】

長い間お世話になりました。実は、いつ副理事長になったかも自分では定かではありませんが、あまり働かなかったことを反省しております。以前はお茶の水女子大学の教員で忙しかったこともありますが、樋口さんにお任せしてしまいました。

それと、もう一つ申しあげなければならぬのは新井事務局長の存在です。樋口・新井の名コンビ。もし、新井さんがいなければ樋口さんはこんなに活動出来なかったのではないか。それを実感したのは、一昨年でしたか新井さんが入院された時のことでした。樋口さんが入院なさっても会の活動にさほど支障はないのですが、新井さんの時はみんなどうすればいいのかわからず、新井さんは病院のベッドの上から陣頭指揮をなさった程でした。

ところで、皆様本日の総会資料をごらんになって愕然とされた方も多いと思います。以前には全国大会で3,000人を集めたこともあり、名古屋の芸術劇場では会場を埋め尽くしたこともありました。

会員の高齢化と減少は、本会だけでなく多くの高齢者団体が抱えている問題であり、また、急速なIT社会で先の見えない大変な時代の中で、従来通りのアナログで行くのか、時代に合ったデジタル化に挑戦するのか、非常に難しい舵取りになると思います。

微力ながら、今後も新役員をもり立てながら、参画していきたいと考えております。

〔沖藤典子 さん〕

私のようなものが副理事長でいいのだろうか、しみじみ悩みながら過ごしてきた20年でございます。

この会が一番盛り上がったのは、介護保険前の5、6年、「家族主義」の嵐が吹き荒れた時代、「介護は家族がすべし」と声高に「介護保険反対論」を唱える代議士がいる中で、そのことに真っ向から反対してきた大きなエネルギー、これは本会にとってとても大きな財産だと思います。また、地方の大会を毎年行ってきたこと。地方の会員が地元の方々と組んで大きな力を発揮なさるきっかけになったことで、地方の方を元気づけ、いろいろな形で議論ができたことは、この会の大きな財産だと思っています。地方を軽視したら、この会はここまでやってこられなかったと思います。地方の皆様、本当にありがとうございました。

私は個人的にも地方の方々とは親しくお付き合いさせていただき、夜中に電話を掛け合って相談に乗ったりしてきました。そういった地方の会員との深いつながりを持って大会運営をやってきたことは、この会ならではの財産だと思います。

実は、副理事長であることに悩んだときもありましたが、ここで無事大役を降りるに当たって心からほっといたしております。

この会の弥栄のご発展を願って退任のご挨拶

とさせていただきます。

司会 会員の高橋政春様からも、ご勇退のお三方へ感謝のメッセージが届いております。

次に新三役の方々にご挨拶いただきます。

〔新理事長 木村民子 さん〕

実は三役揃ってご勇退のことは、昨年の秋頃から議題に上がっており、改選もやむを得ずという方向で議論してきました。樋口さんの後任はなかなか決まらず、世代交代を念頭に、お三方に三人の候補者を選んでいただき、その中から互選で一番活動歴の長い私がお引き受けすることになりました。微力ですが、どうぞよろしくお願いします。

〔新副理事長 石田路子 さん〕

昨年秋ご勇退の意思を示された後で、全会員に、今後どうすべきかアンケート調査したところ、皆様このまま存続をご希望でした。その熱いメッセージに感動し、新しい時代に合った方法を模索しながら、頑張らせていただきたいと思っています。

〔新副理事長 渡辺敏恵 さん〕

13年ほど前に本会で講演させていただいた時、樋口さんのお人柄に惚れ込んで入会させていただきました。

女性というより、人間そのものを大切になさるこの会で、今後は、多世代交流も視野に頑張っていきたいと思っています。

新旧理事・監事の紹介

長年ご尽力いただいたご退任の野中・渥美・稲庭・加藤・富安・吉成・藤原の皆様は残念ながら欠席。新理事ご就任の時田様は欠席。柿沼・鬼塚様には会場からご挨拶いただきました。
(司会／稲葉敬子・記)

「私たちはどう生きるか ～備えるもの 備えること～」

講師

 本会理事・石川県21
ネットワーク代表

常光 利恵

1月1日以来、珠洲や輪島の名前が強く心に刻まれてしまいました。振り返れば、福島^{ふくしま}の双葉、大熊町、岡山^{おかやま}の真備町、熊本^{くまもと}の益城町、北海道^{ほくかい}の胆振地方と災害によって地名を覚える事が増えました。地震列島に住む者として強い自覚と備えが必要だと痛感しています。

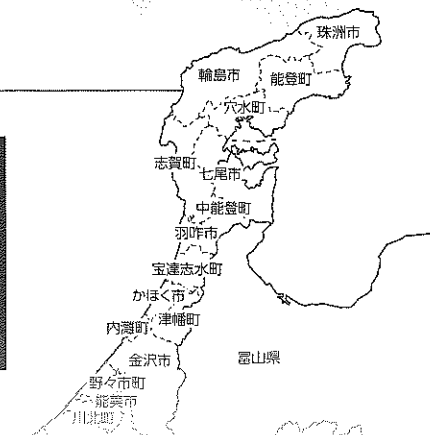
元旦の新聞を読みながら「ウラガネはどうなるんかねえ」と話していた午後4時6分、けたたましい警報、揺れ。そして4時10分M7.6 震度7（志賀、輪島）、中能登町は震度6弱。あまりに長い恐怖の揺れでした。

我家は新耐震基準で築10年、屋内は珪藻土壁がひび割れた程度。隣地境界の40^{センチ}ブロック塀は全倒壊。基礎部分を残し撤去はすでに完了。

金沢東京間が500^{キロ}、580^{キロ}の長い海岸線を持つ能登半島は、今回の地震で「半島特有の」と多く語られます。その半島北東の佐渡から南西に伸びる150^{キロ}の断層帯の、珠洲沖、輪島沖、猿山岬沖、門前沖セグメント（活断層区域）が40秒かけ次々に動きました。海岸は隆起し漁港や漁船の甚大な被害、波の音を耳に露天風呂を楽しんだ和倉温泉の護岸は崩れました。奥能登への道路は寸断に次ぐ寸断。石川県は災害が少ない地域と誤解を与える「全国地震動予測地図」の表記は改められ、地殻変動が活発な地域と肝に銘じて暮らす事になりました。

我家から25^{キロ}地点に現在停止中の志賀原発があり、使用済み核燃料棒プールの冷却水が失われるという夢を見てうなされました。フクシマを思い出し、どこへどうして逃げるのか、まんで（とても）恐ろしい夢でした。

2011年実施の対^{たいこう}口（対=ペア/口=人）支援で



県内市町に60自治体から派遣があり、警察消防の他県ナンバーを見るだけで励まされました。

終日鳴りやまぬ消防、救急、警察のサイレン、空には通い続けるドクターヘリや自衛隊ヘリに、私だったかもしれないと痛切に思い、手を振り、祈りました。多くの命が失われ傷つき、築いたものが一瞬にして失われました。

1日、揺れが収まりました。またま生き残り、以下の4点をすぐに実行。①風呂を満水、備蓄飲料水②明かりと熱源確保（ガスボンベのコンロとストーブ）③食べ物、器やラップ。米3C快速炊き（26分）④災害用トイレ袋（70回分常備）を身近に用意できました。確かに備えて動けたことは防災士（2016取得）の学びの賜物であり、生き抜くために、壊れた暮らしから日常を取り戻す知恵と工夫は家庭科履修の成果でした。

2018討ち入りシンポで“女性防災士増を！”2022小田原大会で“メシの心配は女の役割を卒業～作るのも食べるのも……みんなで～”の延長上の被災でした。モノの備えと共につながりの備えは折れる心を支えると実感の日々でした。

本会つながりで、沢山のご支援を頂きました。

極暖の下着、紙おむつ、紙ショーツに始まり、何度も何度も案じる言葉と、入用品の問合せと届く物品。本当にありがとうございました。

2013年「防災・復興の取組で女性を主体的な担い手に」と位置付けられましたが、増えた女性防災士に出番があり、避難所運営に携われたのか。「気の利く者（特に女性）が差入れ」と組織に組み込まれない働きのみ求められなかったか。仲間の皆さんの支援の熱さを糧に、臆せず当事者の言葉で未来に向かいます。

10年先を行く大阪の惨状 ～根本議論が必要

植本 眞砂子 本会理事
高齢社会をよくする女性の会・大阪代表

日本一高い大阪市の介護保険料！

第9期（2024年度～26年度）の介護保険料が公表され、大阪市がトップで9,249円、次いで大阪府守口市8,970円、大阪府門真市8,749円と上位3位までが大阪府内自治体だった。最も低い東京都小笠原村3,374円とは月額6,000円近い差があり、大阪府内の一番低い千早赤阪村4,390円と約5,000円の差がある。全国平均の6,225円とでも約3,000円高い。制度発足時（2000年）の全国平均2,911円の約3倍に。また、府内の自治体間格差も拡大している。

大阪市が突出しているのはなぜか、全国の10年先取りの現状とその解決に向けた私見を述べたい。

大阪市の高齢者の状況

大阪市の65歳以上の高齢者のいる世帯のうち、独居の割合は45.0%で、全国平均の29.6%を大きく上回る。65歳以上の夫婦のみの世帯は、大阪市25.1%で全国平均の30.2%を下回る。

また、基準額（9,249円）の0.335の介護保険料の世帯（生活保護、市町村民税非課税・基準所得額80万円以下）が全体の30.6%を占めるなど低所得者が多く、介護費用が増加する一方、低所得者は支払う保険料が少なくなる仕組みのため、全体の負担は増える。

大阪市の要介護認定率は、2023年3月末で26.8%であり全国の19.2%に比べて7ポイント高い。介護保険のサービス利用者は、大阪시는22.5%で、全国の16.4%に比べて6ポイント高い。中でも、居宅サービスの利用者の割合が高く大阪市74.2%全国68.7%（2021年4月）で全国と比較すると、保険給付総額に占める訪問介護の割合が高い（大阪市23.5%

全国9.4%（2021年4月））。居宅サービス利用者の支給限度額に対する割合は、全国・大阪ともに5割程度となっている。利用率が高いのは、「権利意識」の表れでもあると考える。

公費負担を増やすしかない！

私は、年金生活者であり、年金以外の収入は皆無である。ここ数年、年金額は下がり続け、これ以上介護保険料が上がれば、可処分所得の減少と物価高で生活が脅かされると危機感を持つ。

大阪市の介護保険料を1,000円引き下げるためには、年間約80億円、3年間で約240億円必要という。（5月21日大阪市議会民生保健委員会）

市民感覚としては、「万博に748億円」、「IRの土壤改良に788億円」かけるなら、一般財源からの投入も検討すべきと考える。しかし、大阪市は、国の負担割合の引き上げを国に要望しているが、国が「健全な介護保険制度の運営や財政規律保持の観点から適当でない」としているとして、市として一般財源の投入には踏み込まない。

独居の高齢者が多い大阪시는、全国の十数年先の姿を体現している。まずは、大阪시는率先して公費を出して市民の介護保険料負担を抑えなくてはと思う。

このままでは制度自体が崩壊する可能性がある。「増税」で新しい財源を確保するなど負担の議論をする必要がある。内部留保が高止まりしている大企業を中心に法人税を引き上げて活用するのも一手。企業ではビジネスケアラ－・介護離職が課題であり、これの損失は9兆円という経産省の試算もある。

改めて、負担と給付、介護保険制度、ベーシックサービスについて考えたい。



『やさしい日本語の時代に、 やさしい介護のことばを』

遠藤織枝 著 ひつじ書房 2,600円+税

インドネシアから来た介護福祉士候補者の日本語支援をするために、介護施設の申し送りの録音を初めて聞いたときのショックは今でも忘れられません。「23ジホウシツシタトコロ、メ、カイガンサレテイマシタ…」日本語の生活を70年も続けて来て、まさに日本語ネイティブの私に理解できないことばが多すぎました。介護の人手が足りなくて、外国から働きに来る人の手がどうしても必要な時に、まず言葉の壁で大事な助っ人を困らせてはいけないと思いました。

介護のことばの難しさを知るために、介護教育の元になっている看護教育の歴史をたどってみました。褥瘡・手掌・心窩部・貼布…どれもこれも難しいことばは、明治のことばそのままに使われていることがわかりました。漢字の環境が明治とはすっかり違ってしまった今、そのまま使い続けていいのでしょうか。(遠藤織枝・記)

→ ジェンダー・ギャップ指数 2024 日本は118位で低迷続く

スイスの世界経済フォーラムは、2024年版「男女格差（ジェンダー・ギャップ）報告」を発表し、日本は146カ国中118位。過去最低だった23年版の125位からは改善したが、G7では依然として最下位。政治・経済に課題。(2024.6.12)

→ 後期高齢者医療制度、 保険料は過去最高に！

75歳以上が加入する後期高齢者医療制度の保険料が2024年度の改訂で前年度に比べ全国平均で7.7%増え、過去最高の月額7,082円(全国平均)となる。医療費の増加のほか現役世代に配慮し加入者の負担割合を見直すなどの制度の改正が要因。新たな保険料の通知は7月から始まる。(2024.6.21)

> 事務局だより

☆ご寄付お礼：梅原昭子（沖縄県）様より本会活動支援のために多額のご寄付をいただきました。感謝あるのみです。

☆コロナ禍から、あえて俳句や和歌、華道・茶道・香道など日本古来の文化を楽しむ人が増えたそうで、決してSNS交流にばかり人が流れたわけではないようです。今回の特別総会は、リアルのみの開催で、遠くは沖縄・札幌・鳥取・愛媛・大阪等から出席された会員さん達との笑顔と笑い声に溢れた交流の極地！感謝あるのみです。

☆「介護保険サービス利用者調査」ご協力を

設問が多いなどの意見も聞こえてきますが、答えられるところだけで結構です。当事者の声を届けたいとの思いです。7月末〆切ですが、よろしくお願いします。（事務局一同）

編集後記

新装会報について、読みやすくなった、老眼に優しいなど励ましのご意見をいただきありがとうございます。

次号では、新副理事長お二人のご紹介をさせていただきます。お楽しみに！（佐）